

第 70 回講演会〈2023 年 6 月 6 日開催〉

## 今、考えよう、SDGs! 児童養護施設出身者が感じる 「ゴール 4 質の高い教育をみんなに」

田中 れいか (執筆=林 史樹)

- 講演者……田中 れいか  
(一般社団法人ゆめさぼ代表理事)
- 司 会……林 史樹  
(本学外国語学部アジア言語学科教授)

今日、SDGs への関心はますます高まっている。教育分野においても、ゴール 4 として、「質の高い教育をみんなに」が目標とされている。しかし、国内でも経済的な事情や周囲からのサポートで機会に偏りがでているのが現状で、諸事情で両親と離れて児童養護施設で暮らす生徒は不利な環境に置かれている。たとえば平成 28 年度では大学・短期大学への進学率が 52.2% であるのに対し、児童養護施設出身者は 12.4% と格差があり、大学中退者も 27% と、中退者平均の 10 倍に達する。そこで今回は、児童養護施設出身で、子どもの進学支援などに取り組む「ゆめさぼ」代表理事の田中 れいか氏を迎えて、児童養護施設での生い立ちと同時に、施設の子どもたちにとっての進学状況について話を聞いた。

まず田中氏の紹介から始まり、田中氏自身が養護施設に入った経緯、施設での勉強時間や通

塾など日常に関する実体験が語られた。一方、進学希望者は、施設の先生から 100 万円をアルバイトで貯めるように指導され、普段の勉強以外に、アルバイトにも精をださなければいけなかった話や、両親などからのサポートもなく経済的な事情から進学先にも制限があった話が紹介された。ゆめさぼでは、高校受験に対しても受験費や交通費の支援を行っているが、施設の子どもたちにとって複数の受験機会自体が困難な現実が語られた。また高校卒業と同時に、自分で生活費も学費もすべて賄わなければならないため、進学を諦める者が多いこともゴール 4 達成への道程が遠いことを感じさせた。

講演後は、主には参加者からの質問やコメント、知念渉先生からの質問への補足などの時間を通して理解を深めた。そのほか、曾我部和馬先生、柏真由美先生にも簡単に発言を求めた。学生からは、進学への思いや施設に対する感情、ゆめさぼの活動や資金源ほか、多岐にわたる質問があった。また講演後に、「質の高い教育が贅沢品になっている」という学生の感想が寄せられたが、それこそゴール 4 の課題といえる。

講演内容を受け、家族こそが最良の単位で、それ以外は、かわいそうという認識が先行していることが、施設の子どもたちを縛っているようにも感じられた。また大人との関係において、田中氏によれば、施設内では 1 人の大人が 10 人を相手にしているが、ピアノなどの習いごとでは 1 対 1 で向き合ってもらえるのがうれしかったという。翻って、1 対 1 で向き合う教育機会がいかに大切かを感じさせる話であった。

最後に田中氏は、教職を目指す学生に、施設の子どもたちへのサポートには、各教員の理解が欠かせないというメッセージを残した。



田中 れいか氏